

やませみ 通信



<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

(やませみは興津川の清流のシンボルです)

山の活動拠点 「嶺の子山荘特集」



嶺の子山荘の広場にある片瀬農林の看板



ノコギリで切って竹飯ごう作り



竹の飯ごうでご飯を炊きました



楽しかった活動の締めくくりは、嶺の子山荘広場で、笑顔の集合写真

NO. 44

令和4年3月

〈令和3年度の活動〉

- 4月 春の市民の森づくり
- 5月 山の料理教室
- 6月 総会（紙上開催）
- 7月 「市民の森」（中止）
- 7月 鮎釣り教室（中止）
- 8月 和田島 DE 沢登り
- 9月 クリーン作戦（中止）
- 10月 川の生きもの観察会
- 11月 森林探検隊
- 12月 嶺の子山荘の階段と広場づくり

目次

- 1 嶺の子山荘の維持管理と新たな活用計画
- 2 「幸せの森」の楽しい活動
- 3 おいしく、楽しく
「山の料理教室」
- 4 会員サポートによるイベント活動を
- 5 市民の森づくり「植林」活動を通じて学ぶ
- 6 サイエンスピクニックで楽しい工作
- 7 和田島 DE 沢のぼり
- 9 川の生き物観察会
- 10 鮎の生態と鮎釣り教室
- 11 令和3年度 森づくり県民大作戦「森づくり貢献証」が授与されました!!

再生紙及びベジタブルインクを使用しています。

嶺の子山荘の維持管理と新たな活用計画

興津川保全市民会議 事業委員長 望月誠一郎

片瀬実さんが開拓した「嶺の子山荘」

近年の興津川保全市民会議の市民の森づくりや森林探検隊の拠点は、「嶺の子山荘」です。ここは、清水区の両河内茂野島大網の釣り橋を渡り、急な山道を登った標高約 300 m の山中にあります。この嶺の子山荘と周辺地区は、元清水市消防団員（司令長）で山好きな片瀬実さんが、青少年の野外活動の場とし「子ども達に伸び伸びと遊んでほしい」と整備されました。また、野外キャンプの出来る場にしようと、地元の人や青年団、市山岳会、ボーイスカウトなど多くの協力を得て建設を進め手造りの「嶺の子山荘」を昭和 43(1968)年に完成しました(当時 41 歳)。その結果、キャンプ、野鳥観察会、宿泊研修など多くの人達に活用されました。



木造の山小屋風「嶺の子山荘」の入口



山荘の内部には、板張りの床に囲炉裏が 2 つある



広場を横切る沢からの水を浄化した水道施設

野鳥保護区に

片瀬さんは、野鳥の保護にも取り組みました。約 3 ヘクタールの所有地に野鳥の集まる木や植物を植え、巣箱を作るなどしました。そして、この森は野鳥の保護区になっています。

市民会議による維持、管理、活用

片瀬さんは平成 20(2008)年に亡くなられましたが、その遺志を継いで、清水区の山岳会会員や S-GIT(静岡緑情報局)の皆さんが維持管理をしてきました。また、近年は興津川保全市民会議の山の活動拠点としての利用が多くなっています。そのため、令和 4 年 4 月から、市民会議が片瀬家から借用することになりました。

嶺の戸山荘はどんな場所に

嶺の子山荘を借用するにあたり、片瀬さんの家を訪ね、奥さんのはるさんと娘さんの良子さんと会い、お話を聞きました。

片瀬さんは、書家でもあり、雅号は「志嶽(しがく)」で、好きだった言葉が『堂高満気佳』でした。壁に、扁額が掛けられていましたが、「かきこうどうにみつ」とよみ、その意味は「良い雰囲気に満ちたところ」だそうです。以前、市民会議のイベント時に、参加者に「嶺の子山荘をどのような地区にしたいか」というアンケートを取りました。その回答の 1 つに『幸せの森づくり』という言葉がありました。まさに、この嶺の子山荘は、緑に囲まれた自然豊かな中で、親子と一緒に活動しているといると幸せな気持ちになるところであり、片瀬さんが望んでいたとおりではないかと思います。

嶺の子山荘「幸せの森づくり」(案)

このようなことから、市民会議が嶺の子山荘地区を創っていくテーマを『幸せの森づくり』としたらどうでしょうか。

小川が流れる森の中で、親子あるいは仲間達と自然観察やキャンプ、植林や野鳥の巣箱づくり、竈で作った鍋料理を食べるなど、楽しく、幸せな気持ちとなれる場所としましょう。

今後は、市民会議の会員の皆さんの協力を得て、嶺の子山荘の維持管理と共に『幸せの森づくり』の整備、活用を進めたいですね。

「幸せの森」での楽しい活動

嶺の子山荘へは、山麓から山歩き

活動日は、参加者は、山麓の大網の釣り橋手前にある駐車場（標高約 100 m）に集合します。ここから望月事業委員長の先導で歩いて嶺の子山荘に向かいます。

最初に、興津川に架かる吊り橋を渡り、山道に入りますが、徐々にきつい坂道になります。途中にある「砂防ダム」や「湧水の沢」のある場所で、2～3回の休憩を取ります。そこでは、「ほとんど雨の降らない冬でも、山に降った雨が地中に浸透しそれが少しずつ湧きだして流れ下り、興津川となる。そして、興津川は市民の水道水源となっている」と紹介します。

そうしているうちに、嶺の子山荘の広場（以下「嶺の子広場」と呼ぶ）に到着します。



吊り橋を渡って山に向かう

標高差約 200 mの急な坂道はなかなかきつい。でも、子どもたちは元気に登っていきます。大人はマイペースで、休み休み登ります。



湧水を浄水器で浄化して飲んでみました。

嶺の子山荘「幸せの森」で活動開始

嶺の子広場では、事業委員と関係者が事前に支度をして、参加者の到着を待っています。

今回の料理は、女性の佐藤事業委員と事務局の西野さんが準備しました。竈での竹の飯ごう炊飯とバームクーヘン作りの火の管理は奥寺委員です。飯ごう作り指導は、山の仕事が得意な白井委員、会場の清掃から「山の料理教室」の看板づくりまで何でも器用な池田委員が担当しました。



最初に、事業委員長が興津が保全市民会議の活動目的と当日のスケジュールを案内します。そして、参加者の名前と住んでいる地区を自己紹介し、いよいよ活動を開始します。

竹の飯ごう炊さんとバームクーヘン作り

令和2年9月に嶺の子山荘の広場にある竈（かまど）を新しく作り替えました。その竈を使って、イベントの昼食時には、「シン鍋」「竹の子汁」「焼き芋」などを作り楽しく頂いています。

今回は、会員の皆さんと竹の飯ごう炊さんとバームクーヘン作りに挑戦しました。

おいしく、楽しく「山の料理教室」



嶺の子山荘の竹林から竹を切り出します



嶺の子広場へ竹を運び出します



竹を加工して竹飯ごうを作りました



炎の上がる竈で、竹飯ごうを炊きあげました

竹を切って飯ごう作り

みんなで竹を切り出し、広場に運び、ノコギリを使って蓋付きの飯ごうを作りました。そこに、米を入れ竈で炊きました。竹の表面は黒く焦げていて、大丈夫かなと思いましたが、お米はしっかり炊けていて、竹の香りのするごはんをおいしく頂きました。

野趣一杯のバームクーヘン作り

バームクーヘンは、レシピに従って用意した材料を混ぜて生地を作り、丸い竹に何度も塗り重ねながら焼いていきます。焼き上がったバームクーヘンは、カリッとしてとてもおいしかった。



バームクーヘンを焼きます



こんがり焼けたおいしいバームクーヘンでき上がり

自然の中で楽しく過ごしましょう

今回は、活動の一例を紹介しました。ここには、囲炉裏を囲んで宿泊できる嶺の子山荘があり、夜には昔懐かしい「五右衛門風呂」にも入れます。会員の皆さんのアイデアを元に、今後も楽しい活動を進めたいと思います。

今では珍しい五右衛門風呂



・・ 会員サポートによるイベント活動を ・・

興津川保全市民会議 事務局 西野 真理恵

活動拠点である「嶺の子広場」を、より活動しやすい快適なフィールドにするため、会員さんを対象に定期的に広場づくりイベントを開催しています。

広場づくりは、皆さんにサポート会員になっていただき、一緒に創っていったらいいなと思っています。



味噌汁の材料をカットする会員サポーター



サポート会員による手作りの階段整備



みんなで協力してタイヤの位置を変えて、安全なシーソーづくりをしました。



これからも、楽しみながら、学びながら、みんなで山の整備をしていきましょう！！

サポート会員募集してます！！



サポート会員「八木」さんの紹介

今回は、積極的に活動をサポートしてくださる会員さんの1人である八木伸章さんと、そのご子息の希望（のぞみ）さんにお聞きしました。

Q：八木さん親子の入会のきっかけは？

A：平成30年の「春の市民の森づくり」イベントを、妻が広報チラシで見つけました。息子も「行ってみたい!!」と興味を持っているようなので申し込みました。

Q：親子で当会議のイベントに参加して、良かったと思うことは何ですか？

A：はじめの頃は、“2人で一緒に”活動したり作成したりしていました。時には、「お父さん、作っておいて」と川遊びや沢蟹を取ったりして遊んだり。でも、学年が上がるごとに本人の意識や意欲が増しているな、と感ずることが増えました。“一緒に”から“自分で”に移行してきてるな、と。

その後は、「皆と」「皆のために」と、どんどん意識や行動が向上していくのを間近で感じることができるので、親子で参加して良かったな、と改めて思います。



初参加のときの希望さんは小学3年生でした。



植林や嶺の子山荘ではいつも親子仲良く作業をされています

市民の森づくり「植林」活動を通じて学ぶ

興津川保全市民会議 事業委員長 望月誠一郎

市民の森づくり活動の1年

嶺の子山荘を拠点とした活動として「市民の森づくり」に取り組んできました。

林道を歩いて約20分ほどの日当たりの良い緩傾斜面において植林活動を行っています。ここでの作業は、4月にはいろいろな樹木の苗木を植える「植林」を行います。そして、7月には植えた木の回りに成長した雑草を刈り取り、植えた木に太陽の光が届くようにする「下草刈り」を行います。冬の2月から3月には、次に植林を行うための場所づくりとしての、「地ごしらえ」を行います。

春の植林活動

春には、会員が植えて育てたいという樹種を選定し、苗木を購入します。これまで、桜、桂、くぬぎ、ならなどを始めいろいろな木を植えてきました。現地では、植林の方法を聞き、それぞれのグループに分かれて作業をします。



実際に木を植え、植林の方法についての説明します



参加者はそれぞれの場所に行き、植林を開始する

植林の楽しさと大変さを学ぶ

植林活動は夢があり楽しい活動です。しかし、植林活動には、困難もあります。

●鹿による食害

その一つは、会員が頑張って植えた小さな苗木のほとんどが、鹿などに食べられ成長できないうことです。そのため、最近は成木に近い、大きな木を植えるようになりました。

●下草刈りによる維持管理

また、木を育てるのに必要な下草刈りも大変な重労働で、多くの人手を必要とします。特に、この市民の森づくりの土地は、とても日当たりが良く立地的には申し分ないのですが、逆に、雑草類の成長が早くて、その管理には手間暇が掛かります。会員の皆さんの協力が必要です。

●育林の学びの場に

このように、緑豊かな山を守り、育てることの体験を通して、良いことも大変なことも学ぶ場として行きたいと考えています。



植林した木を守る支柱を設置し、名札を付けます



参加者全員の集合写真を撮って山を下ります

サイエンスピクニックで楽しい工作

3月5日(土)、6日(日)に静岡科学館る・く・るで開催された『サイエンスピクニック』に当会議も出展しました。私たちの出展内容は、竹切体験や竹工作、木を使ったマグネットづくりです。マグネットの土台になる木は、リョウブやナツツバキで、木の皮の違いを楽しんでいる方も沢山おられました。

今年度は、個人会員の八木伸章さんもスタッフとして協力してくださいました。次々と魅力的な竹工作を生み出してくださって、子ども達も「可愛い!」「作ってみたい!」と目を輝かせていました。この場を借りてお礼申し上げます。



階参加者はそれぞれ個性のある楽しい顔を描きます

興津川保全市民会議 事務局 西野 真理恵

竹工作体験は、お子様が自ら「やってみたい!」と参加するのみでなく、保護者の方が「やらせたい」と言っている姿が目立ちました。「最近は何コギリなどの道具を使う機会が少ないため、ケガをしない安全な使い方を教えたい。」とお母様は話していました。

これからも、「楽しい」気持ちは忘れずに、環境保全を目的したと周知イベントにも参加していきます。

また、市民会議の事業委員会では、毎回のイベントで、どのようなプログラムを提供できるか考え、案を出し合います。ぜひ、会員さんにも気軽に参加いただきたいです。いつでもお待ちしております。



真剣に絵を描きます



竹細工作体験

竹工作コーナーでは、竹を使ったいろいろなグッズを作ります。

簡単なものは、竹を2回輪切りする「ペン立て」です。ちょっと複雑なのは、壁に掛ける一輪挿しです。水入れの所を両サイドから切り、上からナタをあて、金槌でたたくと、スパッと割れます。「これが竹を割ったような性格」と紹介します。



安全なノコギリの使い方を指導

和田島 de 沢のぼり

興津川保全市民会議 静岡市環境局 環境創造課 伊藤晃伸

自然の中で川遊び体験を

環境を大切に思う人に育つためには、子どもの頃に豊かな自然の中で遊び、楽しんだ経験がとても重要であると言われています。

清水区の「清水和田島自然の家」では、これまで興津川流域の豊かな自然をフィールドにして、子ども達に体験の機会を提供してきました。しかし、現在は老朽化等を理由に平成31年4月から一時休館となっています。

清水和田島自然の家との協働企画

清水和田島自然の家には、これまで多くの体験活動を行って培ったノウハウを活かして、この一時休館の期間、興津川保全市民会議と協働してイベントを行うことにしました。

企画したのは、清水和田島自然の家の数あるプログラムの中でも特に人気のイベントだという「沢のぼり」です。

ガイドをしてくれるのは、清水和田島自然の家と南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家のスタッフのみなさんです。

快晴の中での開催

前日に雨が降り川が増水してしまわないか、心配していました。しかし、当日は実に良い天気なり、川が増水もなく無事に開催することができました。

集合場所は、布沢公園です。参加者はしっかりと沢のぼりの装備を調べ集まってきました。

そして、コロナ対策のための健康チェックと検温をしていよいよ沢登りイベントの開催です。



「沢のぼり」のスタート地点に向かい森の中を行く

和田島 de 沢のぼり

7月10日(土) 10:00~16:00

集合場所: 布沢公園

開催場所: 興津川流域

参加費: 無料

主催: 興津川保全市民会議

協賛: 静岡市環境局 環境創造課

お問い合わせ: 054-261-1111

沢のぼり、出発!!

布沢側のスタート地点に着きました。まずは浅いところから川に入ります。川底は何にもないように見えても苔が生えている石があり、とてもツルツルして滑りやすいのです。

子どもより我々大人の方が心配です。



川の中を進むと、次第に川底が深くなってきます。倒木で通れないところ、頭まで浸かってしまうような深い淵があり、みんなで協力しながら進んでいきます。



最初は恐る恐る川の中に足を踏み入れます



川の中には倒木や深い淵などの様々な障害物が

自然に助け合いのこころが生まれた

はじめは、参加者同士、「知らない人」といった様子でしたが、沢のぼりが進むにつれ、「大丈夫?」「手を貸そうか?」など子ども同士が積極的にコミュニケーションをとる様子が見られました。自然の中での環境教育は、環境保全意識を育てるのみでなく、相手を思いやる気持ちも育むのだと、改めて感じさせられました。



3時間の沢登りを全員達成

休憩をはさみながら、沢を歩くこと約3時間、ようやくゴールが見えてきました。

子どもだけでなく、大人もヘトヘトになっています。それでもゴールした後の子ども達の顔を見ると、少し成長しているように感じます。

最初は文句ばかりだった子も、沢のぼりの道中で成長し、ほかの参加者を思いやる声がかげができるようになり、貴重な成功体験の機会となったのではないのでしょうか。



ゴールが近き、安心するとお腹も空いてきました

今後も協働事業として開催を

清水和田島自然の家の再開まではもう少し時間がかかります。今後も、興津川流域での体験活動を提供し続けたいと考えています。

川の生きもの観察会

興津川保全市民会議 静岡市環境局 環境創造課 伊藤晃伸

コロナ禍で観察会は延期に

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、興津川保全市民会議の夏の人気イベントである「川の生きもの観察会」も中止とせざるを得ませんでした。

例年であれば、8月の猛暑の中、子どもも大人も目を輝かせながら、川で生きもの捕りに夢中になる姿を見られただけに、非常に残念に感じていました。

10月10日ようやく開催

令和3年度も、8月には緊急事態宣言が出され、今回も中止にするしかないかと思っていましたが、同宣言の解除を受け、夏も終わりつつある10月10日に実施しました。

例年であれば、暑さをしのげる日陰を探しながらの活動でしたが、10月ともなると、過ごしやすい気温で、川の水が少しひんやり感じられました。

生きものの捕まえ方、生態の解説

午前中は、静岡県水産振興課の鈴木邦弘さんに講師を依頼しました。最初に、生きものの捕まえ方、生態などについて教えてもらいました。

生きものを捕まえる方法は、通称「ガサガサ」。川の底や茂みに網を入れ、ガサガサと足で揺らして生きものを驚かせ、追い出して捕まえます。



川の中に入り採取開始

例年より涼しい時期ということもあり、最初はなかなか捕まえられません。

コツを掴んでくると、いろんな生きものが網の中に入るようになりました。

「これはなんて生きもの？」「入ってる！」

「カニだ！」参加者の皆さんもサガサのコツを掴んだようです。様々な質問が飛び交うようになり、鈴木さんが丁寧に答えてくれました。



ひとつおりの採取を終えると、捕まえた生きものをバケツにいれ、鈴木さんの陸上での授業が始まりました。

興津川にはどんな魚がいるのか、どんな生態なのか、「魚マグネット」を車に貼り付けながら、楽しくお話いただきました。ガサガサの後で疲

～午後は鮎の生態と鮎釣り教室

れているはずの子どもたちも熱心に鈴木さんに質問をしている姿が非常に印象的でした。



採れた魚の名前や水生昆虫の生態や生息環境など紹介



清流にしかない魚類や水生昆虫を沢山採取しました

午後は鮎の生態と鮎の友釣り教室

午後には、短い時間ではありましたが、鮎釣り教室を開きました。

鮎釣り教室では、鮎は1年の間に、生まれて成長し子孫を残して死んでゆく魚という話を聞きました。興津川のシンボルともいえる鮎が成長するためには、その食料となるおいしい苔を育む美しい清流が必要なのです。

また、その成長のために必要な餌場を確保するため縄張りを持つ習性があります。その習性を利用し、オトリ鮎を使い喧嘩をさせて野鮎を釣るという友釣りの話を聞きました。

オトリ鮎が水中を泳ぐ動きを感じる友釣りは、エサづくりなどの他の釣り方にはない楽しさがあるとのことでした。



興津川での鮎の一生とその生態について学びました



池田委員が鮎の友釣りの仕掛けと釣り方を解説



オトリ鮎と野鮎の2匹を同時に取り込む様子を実演

実際にオトリあゆを付けて鮎釣り体験

10月になると鮎のシーズンも終盤ではありますが、実際に竿を握りしめ、おとりの鮎を泳がせる体験をしてもらいました。

あくまで友釣りの体験と思って企画したのですが、参加者のひとりが見事に鮎を釣り上げてしまいました！まさかの釣果に、鮎釣り講師も驚いているようでした。

興津川で学び、遊んだ経験が、子ども達の自然を大切に思う気持ちにつながると思います。

令和3年度 森づくり県民大作戦「森づくり貢献証」が授与されました

令和3年度 森づくり県民大作戦
「森づくり貢献証」を授与

興津川保全市民会議では、これまで、「市民の森づくり」「森林探検隊」などの活動により、会員及び一般参加者と共に、興津川流域の森林の保全活動に取り組んできました。

特に、興津川を流れる水は、清水区民の水道水源であり、「命の水」として、いつまでも清く、絶えることなく流れる川として保つためには、何よりも、その流域にある「森林」が健全な状態を保ち、自然のダムとして機能することが大切であることを訴えてきました。

今回は、1ランク上がり、タイプ「マスター」という貢献証です。

これからも森林の中で楽しく活動しながら森の大切さを学ぶ活動を続けていきましょう。



興津川保全活動のサポート会員募集中です！

活動は、この「やませみ通信」に紹介しているような内容です。

竹の子鍋、しし鍋、流しそうめんづくり、山での植林、川の学習や遊びの活動支援、アユ釣りや山仕事が好きの方など、特技のある方、ない方大歓迎です。

- 会社をリタイア（現在、今後）して、何か地域活動をしてみたいが、何ができるかわからない方など、是非一度、お試しで参加してみてください。
- 年齢、男女などは問いません。

興津川保全市民会議の会員になり、「命の水」を守るため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000 円 / 年
個人会員 1,000 円 / 年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。
また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集以外 地域デザイン研究所（望月）
発行日 令和4年3月

興津川保全市民会議事務局

（静岡市環境創造課内）

TEL. 054-221-1319

FAX. 054-221-1492

〒420-8602 静岡市葵区追手町 5-1



ホームページもご覧ください <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

この活動は、一般財団法人セブン・イレブン記念財団の助成を受けて実施しています。



セブン・イレブン
記念財団